



### エピソード

数人の子ども達が夏休みにお化け屋敷に行った経験から園庭のジャングルジムでは、お化け屋敷ごっこが始まっていました。黒や紫の布を自分達で見つけてジャングルジムに被せはじめましたが、全部覆うには布が足りなくて、黒と紫のカラーポリ袋を切って、洗濯ばさみやテープで囲っていました。布やカラーポリ袋をとめる時に、上に登ってとめる人、下から洗濯ばさみを渡す人など、それぞれ役割を決めて進めていました。初めの頃は時間がなく、ジャングルジムを布で囲って終わりでしたが、9月中頃には中に入ってオバケになる人も決め、上から「オバケだぞー!」と驚かしています。カラーポリ袋を服のようにして「ドラキュラになるね!」と言ったり、ジャングルジムに白いテープや白い平ゴムを巻き付け「クモの巣にしよう!」と考えたりと、とても楽しい空間になっています。「次はお客さんが来るように看板をつくりたい」「入口と出口をつくりたい」など子ども達は自分達なりに考えて、遊びを進めています。

### 保育者の思い

- ・家庭で経験したことや知っていることを友達と一緒に話し、遊びに取り入れられたらいいなと思いました。
- ・「どうすれば本物のお化け屋敷のようになるかな」と友達と話し合い、いろいろなことを試して取り組む中で、楽しんで遊べたらいいなと思いました。
- ・遊びの振り返りをし、子ども達から出た意見やアイデアをしっかりと聞き、素材や用具と一緒に準備することで、さらに遊びが盛り上がっていきばいいなと思っています。自分達で考えた遊びを、子ども主体で取り組めたらいいなと思っています。

### 子どもの育ちや学び

- ・家庭で経験したことや、知っていることを友達や保育者に話し、それを実現したいと、いろいろな素材や用具を準備して遊んでいる。
- ・ジャングルジムの上に登ってとめる人や、下から洗濯ばさみを渡す人など、自分達で役割分担し、遊びを進めている。
- ・平ゴムや白いテープをジャングルジムに巻き付けることで、クモの巣に見立てている。
- ・余ったカラーポリ袋をマントのように巻き付け、ドラキュラやオバケのようなイメージをもって衣装をつくっている。

### 家庭だったら・・・

- ・園でどんな遊びをしているのか、楽しかったことなどたくさん聞いてあげると、子ども達も「聞いてくれる!」「もっと話したい!」と嬉しく思い、どんどん話してくれるかもしれません。
- ・子ども達だけで、わからないことがあれば、一緒に考えたり、「こうしたらいいんじゃないかな」とヒントを与えてあげてもいいかもしれません。